

(一般屋内用)

コンパクトスクエアリニューアル用吊具 FP22325・FP22350・FP22375

保管用

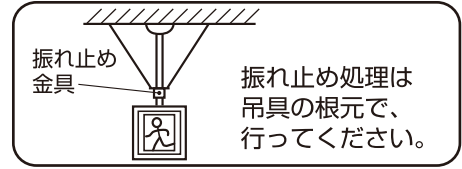
・器具の施工には電気工事士の資格が必要です。施工は必ず工事店に依頼してください。

施工説明 工事店様へ、この説明書は保守のためお客様に必ずお渡しください。

安全に関するご注意

警告

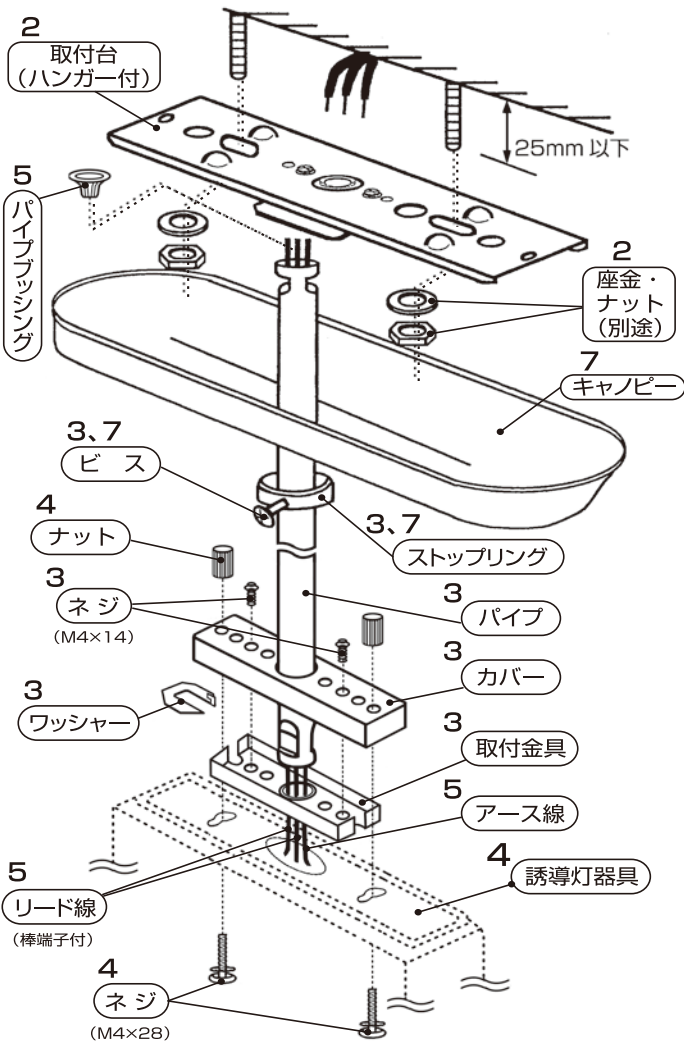
- 施工は、施工説明にしたがい確実に行う。
施工に不備があると、落下・感電・火災の原因となります。
- 吊具を改造しない。落下の原因となります。
- 傾斜天井・壁面への取り付けはしない。天井取付専用吊具です。落下の原因となります。
- 適合器具以外使用しない。落下の原因となります。
(器具の取扱説明書またはカタログにてお確かめください。)
- 開放廊下等、風の強い所では振れ止め処理を行う。(振れ止め処理用の金具を手配してください。ワイヤーは別途)
- 電源線の接続後の絶縁は確実にを行う。
感電・火災の原因となります。
- 単線とより線の直接接続(ねじり接続等)はしない。必ず専用工具で圧着すること。
火災の原因となります。



注意

- 直接日光のあたる場所、振動の強い場所、腐食性ガスの発生する場所、屋外では使用しないでください。落下の原因となります。
落下・感電・火災の原因となります。
- 既存の木ネジ跡を再利用しないでください。取付強度不足による落下の原因となります。

各部のなまえと取付方法

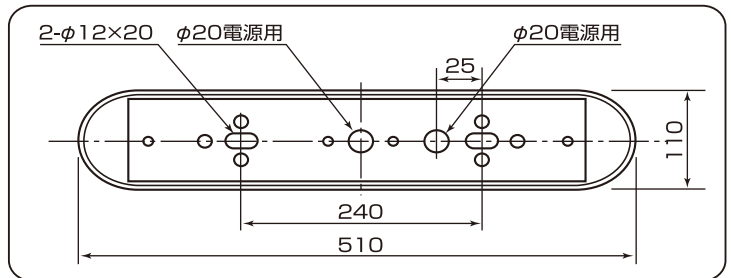


1. 取付前の確認

- ・許容荷重(15kg)に十分耐えるよう取付部の強度を確保する。
不備があると落下の原因となります。

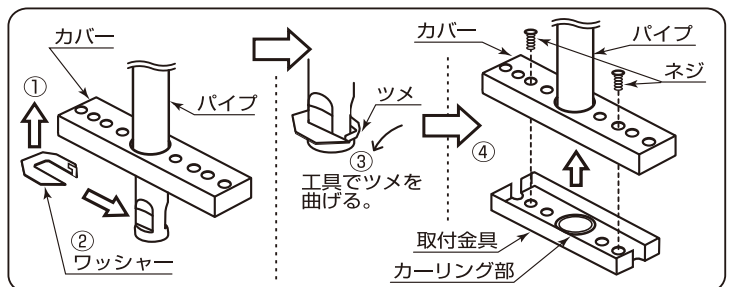
2. 取付台の取付

- ・取付台をボルト(W3/8またはM10)または、ビスにて天井に確実に取り付けてください。
不備があると落下の原因となります。



3. カバー・ワッシャー・取付金具の取付

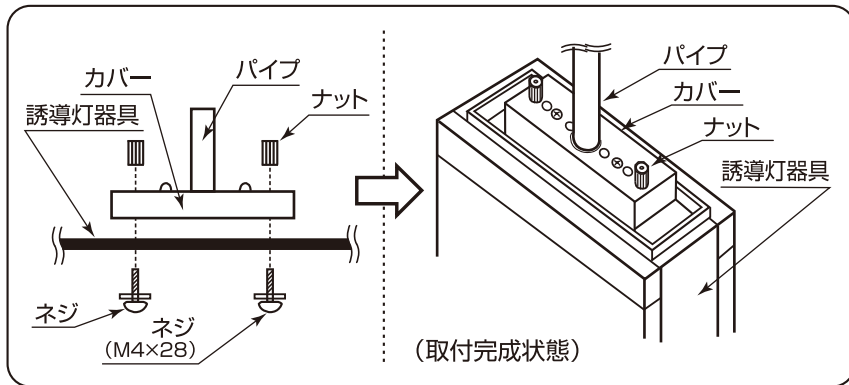
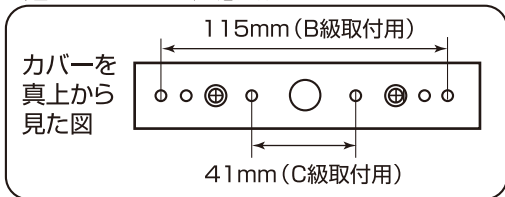
- ・①パイプにカバーを通す。
 - ・②ワッシャーの溝部分をパイプに挿入する。
 - ・③抜け防止のためツメを工具で曲げる。
 - ・④取付金具を図のようにセットし、同梱のネジ(M4×14)で取り付ける。
(カーリング部をパイプ穴に合わせてください。)
- 不備があると落下の原因となります。



各部のなまえと取付方法(続き)

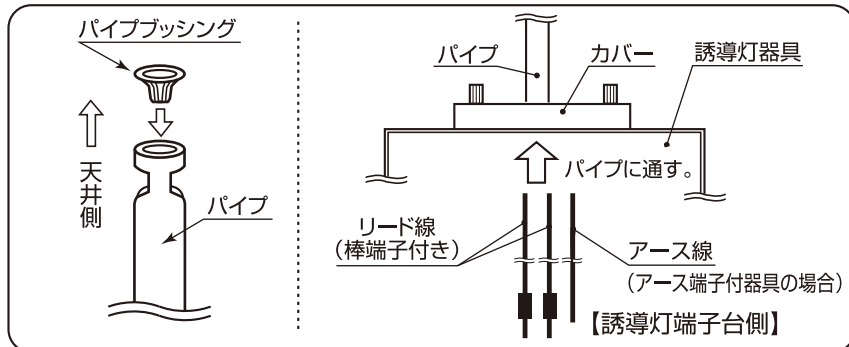
4. 誘導灯本体の取付

- カバーを同梱のネジ(M4×28)・ナットにて誘導灯具に固定する。
接続が不完全な場合は火災の原因となります。
- 誘導灯具により、カバーの取付穴が違いますのでご注意ください。



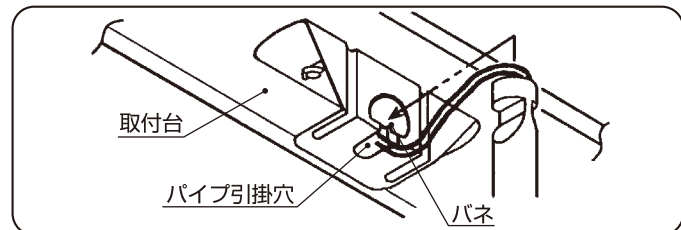
5. リード線の接続

- パイプの天井側(ハンガー取付側)に同梱のパイプブッシングを取り付ける。
パイプブッシングは確実に取り付けてください。
感電の原因となります。
- 同梱のリード線の棒端子付きでない側とアース線(アース端子付器具の場合)を誘導灯具よりパイプに通す。
- 棒端子付を使用し、誘導灯の端子台に接続する。
- アース線(アース端子付器具の場合)を誘導灯のアース端子に接続する。
(詳細は誘導灯側の取扱説明書参照)
- 接続が不完全な場合は火災の原因となります。



6. パイプの取付

- パイプにストップリングを通す。
- パイプにキャンピーを通す。
- パイプ引掛穴にリード線を通した後、ハンガー(落下防止バネ付)のパイプ引掛穴にパイプを確実に奥まで差し込む。
不備があると落下の原因となります。



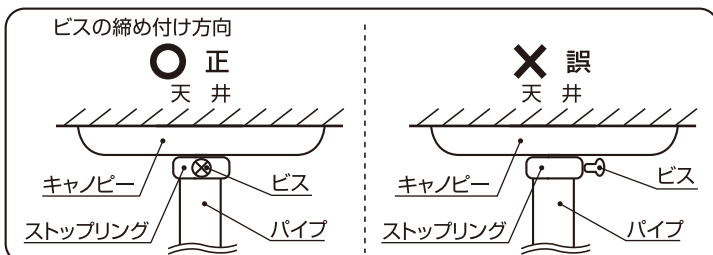
7. 電源線・アース線の接続

- 電源線・器具口出し線・アース線(必要に応じて)接続する。
- 接続部の絶縁を確実に行う。
D種(第3種)接地工事が必要(LED誘導灯は不要)
- 口出し線の接続は、電気設備技術基準の省令第7条、および同解釈第12条にしたがうこと。
- 口出し線の線種: ビニル絶縁電線
電源線の線径: 0.75 mm² アース線の線径: 1.25 mm²

警告 接続、保護が不完全な場合、感電・火災の原因となります。

8. キャンピーの取付

- キャンピーを天井面に押し当て、ストップリングのビスを締めて固定する。



取扱説明

お客様へ、この説明書は必ず保管ください。

- ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みのうえ、正しくお使いください。

安全に関するご注意

警告

- 吊具を改造しない。落下の原因となります。

注意

- ランプ交換やお手入れの際は、必ず電源を切ってください。感電の原因となります。
- アルカリ系洗剤は使用しない。強度低下による破損の原因となります。
- 3~5年に1回は、工事店等の専門家による点検を実施していただき、不具合がありましたら交換してください。

お手入れ



注意

(必ず電源を切って行ってください。感電の原因となります。)

- 吊具の清掃について……………水または中性洗剤を用いて、汚れた部分を軽く拭き取ってください。シンナー、ベンジン、アルカリ系洗剤で拭かないでください。変色・変質・強度低下による破損の原因となります。

パナソニック株式会社 ライティング機器ビジネスユニット 〒571-8686 大阪府門真市門真1048

お問い合わせ先 パナソニック 照明と住まいの設備・建材お客様ご相談センター

0120-878-709(フリーコール) 0120-872-460(FAX)

FT0710-031216